

2018年11月13日 第252号

# 憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター  
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)  
<http://www.kyodo-center.jp> mail: [move@zenroren.gr.jp](mailto:move@zenroren.gr.jp)

## 市民連合が渋谷で宣伝

### 改憲よりもあたりまえの政治を

## 市民と野党の共闘で安倍改憲を阻止しよう！

市民連合は11月10日、渋谷駅ハチ公前広場で「改憲よりもあたりまえの政治を」求め、街頭宣伝行動を行いました。プラカードに「改憲よりも〇〇」の〇〇を参加者が記入。掲げてもらいアピール。立憲民主党の長妻昭衆議院議員、日本共産党の本村伸子衆議院議員、社会民主党の福島瑞穂参議院議員が駆けつけ、スピーチしました。

主催者あいさつを広渡清吾東京大学名誉教授が行いました。「あたり前の政治とは、憲法を守りいかす、民意を尊重する、ウソをつかない政治だ。安倍政権では実現できていない。沖縄県知事選で玉城デニー氏が選ばれ、沖縄県民の民意がしめされた。しかし政府の態度は民意を踏みにじり、地方自治を真っ向から否定している」と指摘した。「安倍首相は自身を立法院の長と言うが、そう言うのは日本で一番偉いと思っている(=独裁者)からだろう。民主主義にとっては一番危険。憲法9条に自衛隊を書き込むだけ、何も変わらないと言っている。これが国民の中に入っている。9条の縛りがなくなることで軍隊に変質してしまう」と訴えました。「改憲発議を許してはいけない。来年の参議院選挙で改憲出来ない体制をつくろう」と呼びかけました。



和光大学の竹信三恵子教授が働き方改革について訴え。「高度プロフェッショナル制では労働時間規制を受けられない働き方になる。昼休みもなしで働かせることができる。裁量労働制と言うが、労働者に仕事の裁量の権限はない。だから法律でしばって人間らしい生活が送れるようにしていた。労政審の議論をみんなで監視しなければならない」と訴えました。国会審議の中で、野党の追及が働く人の利益になっている事例を話し、「企業ファーストの制度のもとで、野党の監視や発言を高めなければいけない。働く人のためには野党議員を増やしていくことが必要」と呼びかけました。

市民連合呼びかけ人の諏訪原健さんは「憲法改正するには800億円かかる。そんなことより私たちのためにお金を使ってほしいと思う人は話しを聞いてほしい」と呼びかけ、「改憲より私たち一人ひとりの生活に目を向けるべき。改憲より私たちの望むことをやらせよう」と訴えました。